株主メモ
MEMO

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日（当事業年度の中間配当の予定はございません）
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ（http://www.fujipream.co.jp/）に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、 日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777（通話料無料）

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フジプレアムと社会を結ぶ情報誌
PRE【プレ】

フジプレアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様に適切な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介してまいります。

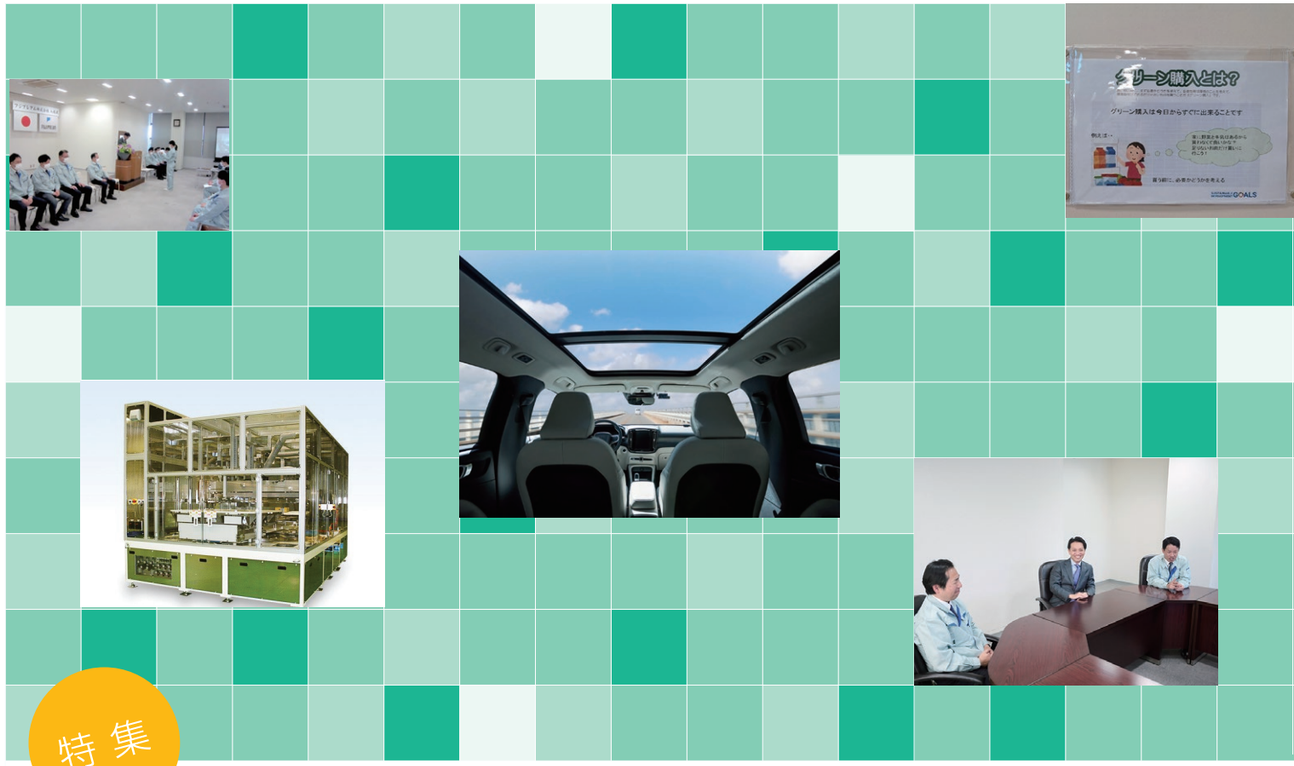
FUJI PREAM フジプレアム株式会社 www.fujipream.co.jp/
〒671-2216 兵庫県姫路市飾西38番地1
TEL079-266-6161(代) FAX079-266-6738

FUJI PREAM
東証スタンダード 証券コード:4237

PRE

フジプレアムと
社会を結ぶ情報誌【プレ】

VOL.47
第41期年次報告書



特集

プレマテック株式会社との協業、今後の展望

グループ企業インタビュー

フジプレアムについて
About Our Company

フジプレアムグループ経営理念　～中期経営ビジョンの体系～

創業の精神

「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり
創意、継続は大いなる「財」なり
自然は大いなる「恵」なり。
全てに対して大いなる「感謝」

経営理念

存在意義	**「共存・共生・共産」**の理念で、ステークホルダーを始め、持続可能な住みよい社会の発展に貢献する
経営の姿勢	二つとない(**不二**)時代に先駆けて(pre)存在し(am)進化し続ける企業を目指す
事業行動の指針	**「誠意」**と**「不可能への挑戦」**の精神をスローガンに未来を切り開く事業を手がける

ステークホルダーに対する姿勢　～ステークホルダーとの関係性を理解する～

一人一人の尊厳と価値が認められ、
従業員が家族に対する責任を
果たすことができる会社

地域社会
地域社会の発展、健康、教育の改善に寄与する活動に参画し、地元に愛される会社

株主様
企業価値を持続的に向上できる会社

お客様
共に新領域に挑む共創関係となれる会社

株主の皆様へ
To Our Shareholders

光都工場　光都PV工場

100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

精密貼合市場の
グローバルリーディングカンパニーを目指す。

株主、投資家の皆様には、益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素よりフジプレアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第41期(令和5年3月期)決算報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社を取巻くビジネス環境は、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種等の対策が進み、行動制限の緩和により経済社会活動も正常化に向かいました。一方、ウクライナ情勢の長期化による原材料価格の上昇、欧米でのインフレ抑制に向けた金利引き上げ政策に起因する円安の進行、それに伴う燃料価格の高騰による物価上昇懸念等、依然として予断を許さない状況が続いております。

このような環境の中、当社グループの主力事業である精密貼合及び高機能複合材部門におきましては、自動車業界及びエレクトロニクス業界でのディスプレイ化、タッチパネル化ニーズを取込み、当社の精密貼合技術を活用した加工ビジネスを拡大してまいりました。車載用途事業での受注は順調に推移してまいりましたが、世界的に半導体をはじめとする電子部品の不安定な供給状況が依然として続いていることから、当社の受注にも影響を及ぼす結果となっております。

一方、環境住空間及びエンジニアリング部門におきましては、太陽光発電事業は引き続きOEM供給を中心とした生産を実施、エンジニアリング部門では、機械製造販売子会社のプレマテック株式会社との協業が順調に推移し、半導体不足に起因する半導体関連設備の需要増にも対応することで好調を維持しております。

今後、当社といたしましては、変革のスピードを加速させ、グローバルリーディングカンパニーを目指してまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長　松本倫長

特集

グループ企業インタビュー

～ プレマテック株式会社との協業、今後の展望 ～

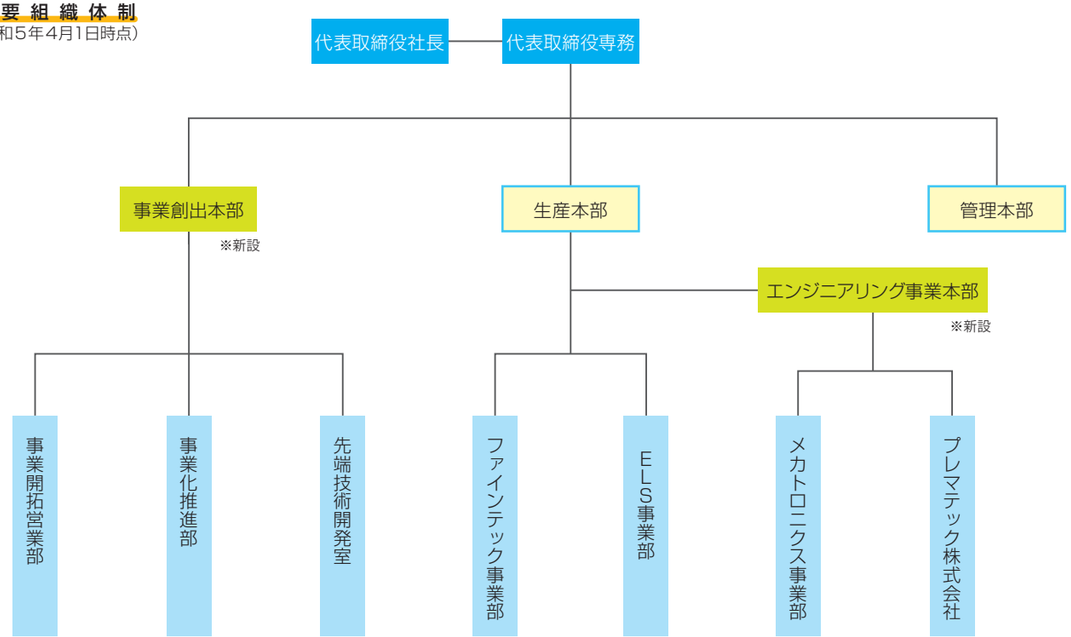
2021年4月に株式会社飯沼ゲージ製作所を子会社化してから2年。
フジプレアムは2023年4月1日付の組織改正において
「事業創出本部」と「エンジニアリング事業本部」を新設しました。
変革のスピードを加速させ
グローバルリーディングカンパニーを目指す上でどのような展望を見据えているのか。
新たに発足した組織の背景や目的についてご紹介します。

営業と開発･研究の連携強化を図る組織づくり

近年、市場の変化するスピードが日に日に早まるなかで、マーケットのニーズに先駆けた形での技術開発がますます求められています。そうした背景を受け、フジプレアムでは2020年に技術本部を開設、投資判断を早めるために技術本部長を社長自らが兼務するなど、開発スピードの向上に努めてきました。翌2021年にはM&Aによって確かな技術力を誇る株式会社飯沼ゲージ製作所（現プレマテック株式会社）を子会社化、飛躍への土台づくりを進めています。

今回の組織改正では、営業本部と技術本部を包括した「事業創出本部」を設け、さらに生産本部内にメカトロニクス事業と連結子会社プレマテック株式会社との連携を担う「エンジニアリング事業本部」を新設しました。営業と開発･研究の連携を強化することで組織のさらなる活性化を実現し、事業化のスピードを向上させることが最大の狙いです。

主要組織体制
（令和5年4月1日時点）



特集 グループ企業インタビュー

多様化する技術に挑む「事業創出本部」

事業創出本部はその名の通り「新技術を用いて事業化を行う」部門です。技術本部と営業本部を一体運営し、役員分担がはっきりした組織から連携を重視した組織へと変えることで、多様化する技術への対応力を強化することが目的です。

事業化を推進するために大きな役割を果たすのは実証とテストです。フジプレアムには、営業が吸い上げたニーズを技術部門が形作り、それを製品化していくという業務の流れがありますが、営業部門と技術部門の連携を強化することによって、顧客のニーズを踏まえた設計から開発への流れがスムーズになり、スピーディーな事業化につながることを期待します。

新たな開発を支える「エンジニアリング事業本部」

新技術を用いての事業化を行う上で必要となるのが、開発を実現するための設備です。その設備をつくるのが今回新設されたエンジニアリング事業本部の役割となります。近年はニーズが多種多様となっており、これまでフジプレアムが行ったことのないプロセス技術への対応が増えています。そのためにも、メカトロニクス事業と連結子会社プレマテック株式会社の一体運営は欠かせません。

フジプレアムのメカトロニクス事業とプレマテックは事業領域が近い部分もそうでない部分も混在しているため、意見の吸い上げや情報共有に時間も手間もかかります。組織として一体化することで意見の統一、情報の共有を行い、シナジー効果を発揮しやすい体制づくりを実現したいと考えています。

代表取締役社長
松本倫長

上席執行役員
エンジニアリング事業本部長
プレマテック取締役社長
玉田達哉

メカトロニクス事業部長兼
事業化推進部部長
大塚寛樹

～ プレマテック株式会社との協業、今後の展望 ～

相互理解の深化、情報のつなぎ合わせによりシナジーを創出

フジプレアムとプレマテックの協業が始まって2年が経過しましたが、その中で相互の理解は大いに深まりました。自動化技術を得意とするフジプレアムと、プロセス関係の装置製造に長けているプレマテックとではビジネスの枠組みが異なりますが、異なるからこそ、補完し合う関係でシナジーが創出できる余地も大きいと考えます。例えば、プレマテックが装置を販売していた顧客向けにフジプレアムの加工技術を提案するなど、様々な連携のケースも生まれつつあります。事業の設計思想が異なるもの同士が互いのリソースを活用することで、提案やソリューションの幅も広がっていくものと思います。

メカトロニクスの進化で、新しいビジネスを生み出していく

現在のフジプレアムの事業の柱はコア技術となる精密貼合技術ですが、今後、メカトロニクス事業をさらに強化することで、売上規模においても事業の柱となりうるのではないかと期待しています。新たな体制のもと連携の強化を加速させ、新しいビジネスの創出に積極的に挑戦していきます。

ラビング装置
（液晶配向膜配向処理装置）

SDGs最前線 フジプレアムの取り組み

グリーン購入の取り組み

当社グループでは、2021年10月に発足したサステナビリティ推進委員会を通じて、様々なSDGｓの取り組みを進めています。

2023年5月に実施した活動状況報告会においては、事業活動を通じた取り組みとして「グリーン購入の推進」が報告されました。

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に環境を考慮して必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することを指し、持続可能な社会の構築に大きく貢献する取り組みです。

当社グループでは、フィルム、梱包材料など環境配慮型材料の提案を行うとともに、環境に配慮した製品購入を意識しながら一般物品のグリーン購入適合品への置換を推進し、社内掲示を行うことで全従業員への啓発、意識向上に努めています。

トピックス
Topics

TOPICS 01

ヴィッセル神戸スポンサー契約継続

J1リーグヴィッセル神戸のオフィシャルスポンサー契約は今年で3年目となります。

今年も兵庫県のプロサッカークラブの応援を通じ、スポーツ振興と地域活性化に貢献してまいります。

TOPICS 02

令和5年度 入社式を実施

令和5年4月3日（月）入社式を実施致しました。
今年度は5名の新入社員を迎えました。

2023 2 February | 3 March | 4 April

TOPICS 03

新入社員昼食会を実施

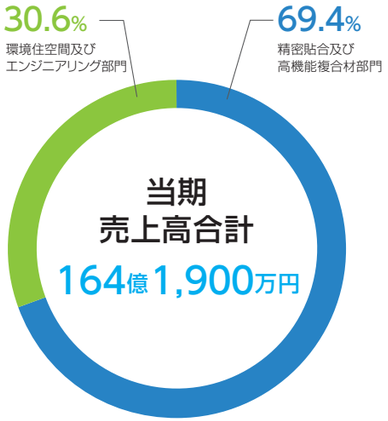
令和4年度･令和5年度の新入社員と役員との昼食会を実施致しました。
社会人としてのスタートを切った新入社員へ役員から激励の言葉が送られました。

セグメント情報
Segment Information

親会社株主に帰属する当期純利益7億700万円確保

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種等の対策が進み、経済社会活動も正常化に向かいました。一方、ウクライナ情勢の長期化による原材料価格の上昇、物価上昇懸念等、依然として予断を許さない状況が続いています。このような環境の中、精密貼合及び高機能複合材部門においては、自動車及びエレクトロニクス業界でのディスプレイ化、タッチパネル化ニーズを取込み、加工ビジネスを拡大してきました。車載市場での受注は順調に推移しましたが、世界的に半導体等、電子部品の不安定な供給状況が続き、当社の受注にも影響を及ぼしています。環境住空間及びエンジニアリング部門においては、太陽光発電事業はＯＥＭ供給を中心とした生産を実施、エンジニアリング部門は機械製造販売子会社のプレマテック株式会社との協業が順調に推移し、半導体不足に起因する半導体関連設備の需要増にも対応することで好調を維持しています。

この結果、当連結会計年度における当社グループの連結業績は、売上高16,419百万円（前年同期比14.6%減）、営業利益854百万円（同21.3%増）、経常利益874百万円（同22.5%増）を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は707百万円（同59.3%増）となりました。



精密貼合及び高機能複合材部門

第41期 売上高
114億100万円

国内外におけるディスプレイ・タッチパネル市場は、各分野でデジタル化が進み拡大基調となっています。一方、半導体等各種部品の供給問題が継続し、車載用途では完成車メーカーの生産計画に影響が及ぶ等、当社もその影響を受ける状況となっています。今後も自動車の電子化・ディスプレイ化は確実に進み、当社の商機は増加する一方、市場参入者も増加し激しい受注競争となってきています。スマートフォンの高度化、ディスプレイサイズの大型化等市場が変化する中、当社は精密貼合技術により一層磨きを掛け、最先端生産設備の開発・導入による生産の高度化の実施により、難易度の高い技術を求められる用途製品の受注・開発に取組んでおります。

この結果、売上高11,401百万円（前年同期比23.2%減）、営業利益258百万円（同35.4%減）となりました。

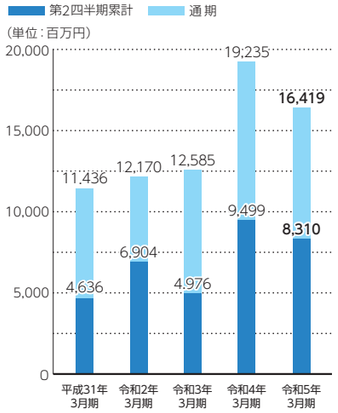
環境住空間及びエンジニアリング部門

第41期 売上高
50億1,800万円

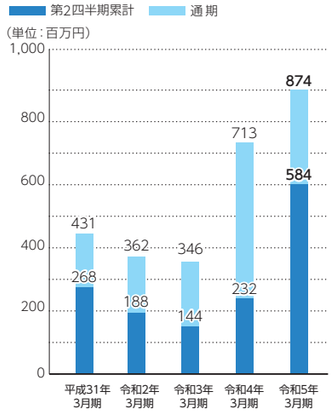
太陽電池の国内市場は、国内制度の変更あるいは海外メーカーの台頭により、国内メーカーにとっては厳しい状況が続いております。そのため当社グループも、コスト削減を進めながら、ＯＥＭ供給を主軸とし、その中でも製品開発・用途開拓等の開発要素が大きいものに注力してまいりました。また、エンジニアリング部門においてはプレマテック株式会社の半導体関連向け装置の受注が順調に推移し、好調を維持しております。装置製造用部品の長納期化は解消しておりませんが、早期手配を進めることで、装置製造を受注通りに進めております。また当社のメカトロニクス技術を活用した省人化あるいは省エネルギー化ビジネスにも引き続き注力しております。　この結果、売上高5,018百万円（前年同期比14.5%増）、営業利益591百万円（同97.6%増）となりました。

財務ハイライト
Financial Highlight

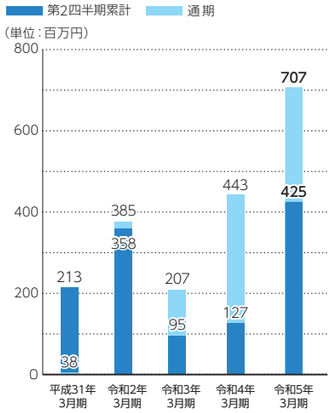
売上高



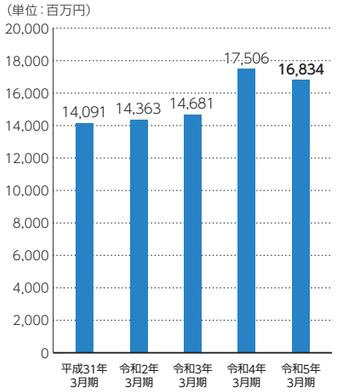
経常利益



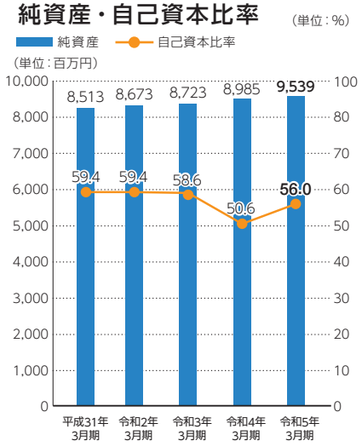
親会社株主に帰属する純利益



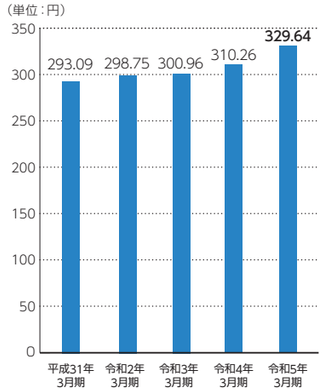
総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産



Financial Statements

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

（単位：千円）

科目		当期（令和5年3月31日）	前期（令和4年3月31日）
資産の部	流動資産	8,045,361	8,320,114
	現金及び預金	3,747,051	3,526,502
	受取手形、売掛金及び契約資産	3,680,348	4,025,865
	商品及び製品	2,779	1,479
	仕掛品	669,003	770,441
	原材料及び貯蔵品	303,991	391,448
	その他	29,711	45,452
	貸倒引当金	△387,525	△441,075
	固定資産	8,789,356	9,185,893
	有形固定資産	7,588,207	8,036,258
	無形固定資産	5,080	8,948
	投資その他の資産	1,196,069	1,140,687
資産合計		16,834,718	17,506,008

（単位：千円）

科目		当期（令和5年3月31日）	前期（令和4年3月31日）
負債の部	流動負債	5,001,487	6,326,303
	支払手形及び買掛金	1,444,042	1,977,341
	短期借入金	2,510,000	2,640,000
	1年内償還予定の社債	28,000	28,000
	1年内返済予定の長期借入金	465,436	992,178
	未払法人税等	129,007	168,808
	賞与引当金	36,445	35,707
	製品保証引当金	80,922	110,529
	その他	307,634	373,738
	固定負債	2,293,598	2,194,361
	社債	360,000	388,000
	長期借入金	1,777,162	1,622,570
	その他	156,436	183,791
	負債合計	7,295,085	8,520,665
純資産の部	株主資本	9,391,685	8,856,007
	資本金	2,000,007	2,000,007
	資本剰余金	2,440,803	2,440,803
	利益剰余金	5,814,804	5,279,126
	自己株式	△863,930	△863,930
	その他の包括利益累計額	27,683	9,497
	非支配株主持分	120,264	119,838
	純資産合計	9,539,633	8,985,343
負債純資産合計		16,834,718	17,506,008

連結損益計算書

（単位：千円）

科目	当期（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）	前期（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）
売上高	16,419,888	19,235,112
売上原価	14,406,076	17,359,242
売上総利益	2,013,811	1,875,869
販売費及び一般管理費	1,159,070	1,171,379
営業利益	854,741	704,489
営業外収益	40,846	40,501
営業外費用	20,906	31,173
経常利益	874,682	713,817
特別利益	―	1,049
特別損失	12,526	30,279
税金等調整前当期純利益	862,155	684,587
法人税、住民税及び事業税	230,957	233,703
法人税等調整額	△76,354	10,299
当期純利益	707,552	440,584
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失（△）	425	△3,303
親会社株主に帰属する当期純利益	707,127	443,887

連結包括利益計算書

（単位：千円）

科目	当期（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）	前期（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）
当期純利益	707,552	440,584
その他の包括利益	18,185	△6,807
その他有価証券評価差額金	18,185	△6,807
包括利益	725,738	433,776

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

科目	当期（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）	前期（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,166,781	1,188,906
投資活動によるキャッシュ・フロー	△69,906	35,440
財務活動によるキャッシュ・フロー	△703,597	△996,902
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,160	6,458
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	399,437	233,903
現金及び現金同等物の期首残高	3,297,067	3,063,163
現金及び現金同等物の期末残高	3,696,504	3,297,067

Profile

会社概要

（令和5年3月31日現在）

商号	フジプレアム株式会社 Fujipream Corporation（英）
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	精密貼合及び高機能複合材関連事業 環境ビジネス関連事業　他
従業員数	273名（連結、臨時雇用を除く）
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京営業本部
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社（設立：平成13年4月） プレマテック株式会社（設立：昭和37年6月）
主要取引銀行	三菱UFJ銀行／みずほ銀行／山陰合同銀行

取締役及び監査役

（令和5年3月31日現在）

代表取締役社長	松本　倫長
代表取締役専務	名村　信彦
取締役	木村　裕史（社外）
取締役	森田　晃史
常勤監査役	上田　豊
監査役	中川　康徳（社外）
監査役	田島　宏一（社外）

株式の分布状況

（令和5年3月31日現在）

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	6,744名

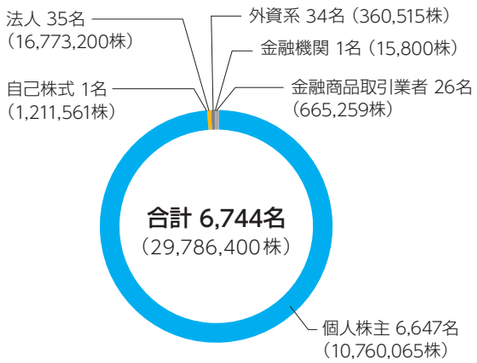
大株主の状況

（令和5年3月31日現在）

フォローウインド株式会社	12,092,700株
松本　倫長	2,441,400株
松本　庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
日亜化学工業株式会社	1,425,000株
フジプレアム株式会社	1,211,561株
リンテック株式会社	865,400株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
藤田　和也	258,000株
津田　鉄也	250,000株

株式分布状況

（令和5年3月31日現在）



キーワード解説 vol.7

先端産業を支える
フジプレアムの独自技術を
キーワードで解説するシリーズ

keyword

調光ガラス（ちょうこう）

電気を使って透明・不透明を切り替えられるガラスのこと。

調光ガラスは、電気的な制御によって透過光量を調整でき一般的には、フィルムや液晶を特殊なガラスの中に封入して作られます。また、瞬時に光を遮ったり透過させたりすることができるため家庭やオフィス、商業施設等で使用され、快適性やプライバシーの確保などに役立ちます。
さらに、省エネルギー効果が期待できるため、エコな建築素材としても注目されています。
とりわけ今注目されているのが、自動車分野における調光ガラス。自動車ガラスそのものが調光モード⇔透過モードの切り替えを行い差し込む光のやわらかさを調節できるもの、紫外線をカットすることで日焼けを防ぐ効果のあるものなどその機能は日々進化し、多様化しています。
フジプレアムでは、自動車用のガラスをはじめとしてガラス建材、浴室のモニター、冷蔵庫のガラストップなどの住空間、駅のホーム柵、自動ドア、ガラスパーテーション、エスカレーターなどの生活空間に独自の「精密貼合技術」を展開。
快適でやさしい社会の構築に向け、取り組みを進めてまいります。

※画像はイメージです